

日本ユニシス株式会社

2015年3月期 決算説明会（2015年5月8日開催）

主な質疑応答

（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【質問者 A】

Q： 2015/3 期の結果は、計画からやや未達となったが、その要因について教えてほしい。

特に 4Q(1-3 月)の事業環境がどのような状況だったのか教えて頂きたい。

A： 計画に対しては、主に製品販売で未達となったが、計画していたいくつかの案件で期ズレがあったこと、顧客と条件面で折り合わなかったため獲得できなかった案件があったことによる。ただし、足元では案件は非常に多く、環境は良いと考えている。

Q： 2016/3 期の営業利益見通し(前期期初見通し比+5 億円)は、足元の事業環境を踏まえるとやや弱い印象だが、どういった前提なのか教えてほしい。

A： 4月から始まった中期経営計画では最終年度(2018/3 期)の営業利益目標を 170 億円としている。「変革とチャレンジ」と銘打っており、従来のコアビジネスで生産性を 3 割上げビジネスモデルを「変革」し、デジタルイノベーション、ライフイノベーションといった新しいビジネスに「チャレンジ」することで、収益を上げていく。初年度である 2016/3 期は、変革に重点を置く中で、まずは着実に実行できる水準とした。

【質問者 B】

Q： 2016/3 期は、アウトソーシングの増益(前期比+17 億円)を見込んでいるが、前提を確認したい。

A： 2015 年 1 月から地方銀行での基幹系システムが新規稼働したため、それが通年でプラスの影響が出てくる。その他、金融関連案件や、デジタル領域ビジネスも順次立ち上がってくる見込みである。

Q： サポート売上は、2015/3 期も減少となったが、2016/3 期はどう見ているのか。

A： 2016/3 期のサポート売上は、若干の減収(前期比▲12 億円)となる見通しである。

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。